

直線形真空エジェクタ

ZU Series

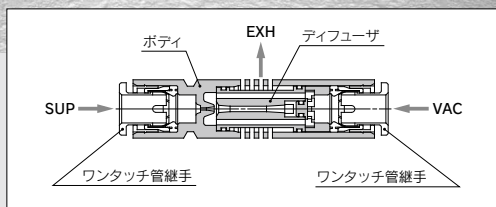
配管途中に設置可能な省スペースタイプのエジェクタ



ノズル径/φ0.5, φ0.7

タイプ/S:高真空タイプ

L:大流量タイプ



- 真空ポートと供給ポートが一直線上にあるため配管が容易
- 樹脂ボディ採用で軽量
ノズル径 φ0.5:6.5g
φ0.7:7.0g
- ワンタッチ管継手内蔵(銅系・フッ素系不可対策済)

ZK2

ZQ

ZR

ZB

ZA

ZX

ZM

ZL

ZH

ZH

ZH
-X267

ZHP

ZU

VQD-V

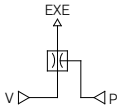
直線形真空エジェクタ

ZU Series

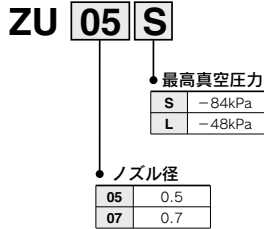
RoHS



回路図



型式表示方法



仕様

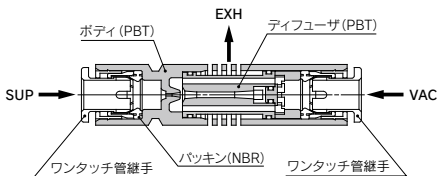
使用流体	空気
最高使用圧力	0.6MPa
標準供給圧力	0.45MPa
使用温度範囲	5~50℃
適用チューブ外径	SUP.ポート:6 VAC.ポート:6

エジェクタ仕様^{※1}

タイプ	型式	ノズル径 mm	最高真空圧力 kPa ^{※2}	最大吸入流量 L/min (ANR) ^{※2}	空気消費量 L/min (ANR) ^{※2}	質量 g
高真空 タイプ	ZU05S	0.5	-84	7	14	6.5
	ZU07S	0.7	-84	10	29	7.0
大流量 タイプ	ZU05L	0.5	-48	12	14	6.5
	ZU07L	0.7	-48	16	29	7.0

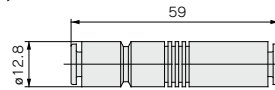
※1 特性を示す各値は代表値であり、大気圧(天候、標高等)によって変化します。
 ※2 供給圧力0.45MPa時の値

構造図

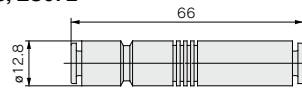


外形寸法図

ZU05S, ZU05L



ZU07S, ZU07L

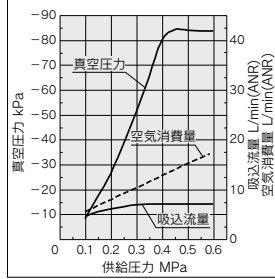


排気特性／流量特性(代表値)

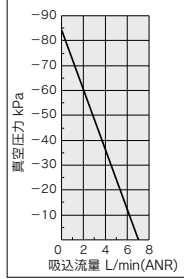
流量特性は供給圧力が0.45MPa時のものです。

ZU05S

排気特性

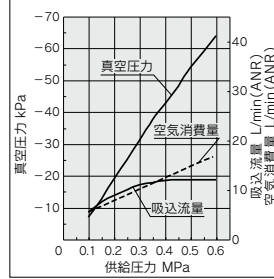


流量特性

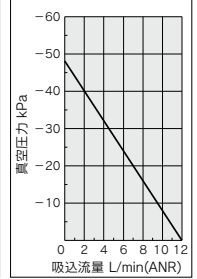


ZU05L

排気特性

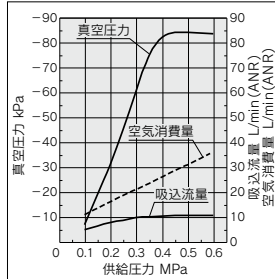


流量特性

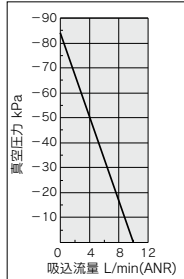


ZU07S

排気特性

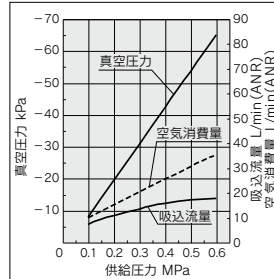


流量特性

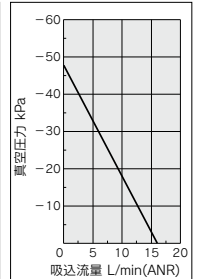


ZU07L

排気特性

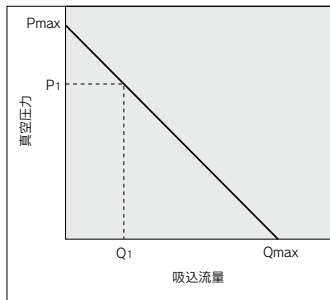


流量特性



- ZK2
- ZQ
- ZR
- ZB
- ZA
- ZX
- ZM
- ZL
- ZH
- ZH-X267
- ZHP
- ZU**
- VQD-V

流量特性の図の見方



流量特性は、エジェクタの真空圧力と吸込流量の関係を表し、吸込流量が変化すると真空圧力も変化することを示しています。一般には、エジェクタの標準使用圧力での関係を示しています。左図で、Pmaxは最高真空圧力、Qmaxは最大吸込流量を示しています。カタログ等で仕様として掲載されている値はこの値です。

真空圧力の変化のしかたにつきまして、順を追って説明します。

- ①エジェクタの吸込口を塞ぎ密閉すると吸込流量は0となり、真空圧力は最高(Pmax)となります。
- ②吸込口を徐々に開き、空気が流れる(空気が漏れる)ようにすると、吸込流量は増加しますが、真空圧力は低くなります。(P1とQ1の状態)
- ③さらに吸込口を開き、全開すると、吸込流量は最大(Qmax)となりますが、この時の真空圧力はほとんど0(大気圧)となります。

このように、吸込流量が変化すると、真空圧力も変化します。言い換えますと、真空ポート(真空配管)に漏れがない場合は真空圧力は最高となりますが、漏れ量が増えるにしたがって真空圧力が低下し漏れ量と最大吸込流量が等しくなると真空圧力はほとんど0となります。

通気性のあるワークや漏れのあるワークを吸着させる場合は、真空圧力があまり高くなりませんので注意が必要です。



ZU Series

製品個別注意事項

ご使用の前に必ずお読みください。安全上のご注意につきましては後付50、真空用機器／共通注意事項につきましてはP.49～51をご確認ください。

取付けについて

⚠注意

エジェクタ本体に接続配管や取付けによって過度の荷重やモーメントが加わらないようにご注意ください。

選定およびサイジングについて

⚠注意

P.25～48の真空用機器機種選定方法をご参照ください。

ワンタッチ管継手使用上のご注意

⚠注意

ワンタッチ管継手のチューブ着脱操作

1) チューブの装着

- ①外周に傷のないチューブを直角に切断してください。チューブ切断の際はチューブカッタTK-1、2、3をご使用ください。ペンチ、ニッパ、ハサミ等は使用しないでください。チューブが斜めになったり、偏平したりして、接続できなかったり、または接続後のチューブ抜けやエア漏れの原因となります。チューブの長さは余裕を取ってください。
- ②チューブを握り、ゆっくと押し込み、奥まで確実に差し込んでください。
- ③奥まで差込んだらチューブを軽く引っ張り、抜けないことをご確認ください。奥まで確実に装着されていないと、エア漏れやチューブ抜けの原因となります。

2) チューブの離脱

- ①リリースブッシュを十分に押し込んでください。この時、ツバを均等に押ししてください。
- ②リリースブッシュが戻されないように押さえながら、チューブを抜いてください。リリースブッシュの押さえが不十分だと逆に食い込みが増し、抜けにくくなります。
- ③離脱したチューブを再使用するときは、チューブの食込んだ箇所を切断してご使用ください。チューブの食込んだ箇所をそのまま使用すると、エア漏れの原因やチューブが離脱しにくくなります。